

今は昔、大隅守おおすみのかみなる人、国の政をしたゝめおこなひ給あひだ、郡司のしどけなかりければ、「召にやりて、いましめん」といひて、先々の様にしどけなきこと有けるには、罪にまかせて、重く軽くいましむることありければ、一度にあらず、たびたび、しどけなきことあれば、重くいましめんとて、召すなりけり。「ここに召して、率て参りたり」と、人の申しければ、さきざきするやうに、し臥せて、しりかしらにのぼりゐたる人、しもとをまうけて、打つべき人まうけて、さきに、人ふたりひきはりて、出できたるを見れば、頭は黒髪もまじらず、いとしろく、年老いたり。

みるに、打ちやうぜんこといとほしくおほえければ、何事につけてか、これをゆるさんと思ふに、事つくべきことなし。あやまちどもを、片はしより問ふに、たゞ老を高家にて、いらへをる。いかにして、これをゆるさんと思ひて、「おのれはいみじき盗人かな。歌よみてんや」といへば、「はかばかしからず候へども、よみ候ひなん」と申しければ、「さらばつかまつれ」といはれて、ほどもなく、わなゝ聲にて、うちいだす。

としを経てかしらの雪はつもれどもしもとみるにぞ身はひえにける
といひければ、いみじうあはれがりて、感じてゆるしけり。

人はいかにもなさけはあるべし。